

社会という「暗記科目」の効率的な学習

一般的に、社会は「暗記科目」だといわれています。確かに、社会で学ぶ内容は、多くの用語を暗記していなければ問題を解く力に結びつかないという特徴があることは事実です。

そのため、毎回の中間・期末テストの対策のたびに、学校のワークやプリント、あるいは塾のワークなどを使って十分なテスト対策を行うことで、学習量を積み重ねていかなければならないのが現状です。高校受験直前になってから、あわてて短期間で暗記できるような易しい教科ではないということを知っておいてください。



ただし、社会は、数学や英語のように、「ある単元が理解できないと次に学ぶ単元が理解できない」という構造にはなっていません。そのため、社会科においては、ある単元が苦手だったとしても、別の単元で成績を立て直すことは簡単に出来ますし、ある分野が苦手だったとしても、全体的には悲観することはない科目だということがいえます。そのため、長期間にわたつ

て欠席していた人や、これまで勉強をさぼっていた人でも、学習の遅れを取り戻せる教科が社会科だと考えることができます。

特に、社会で学ぶ内容の中には、関心を持ちやすい分野がいくつかあり、そこだけでも興味を持って学べるという特徴があります。今まで社会の成績が悪く、苦手意識を持っている人も「どうせ社会は苦手なんだ」と言っていてあきらめるのは早いと思います。

社会科の場合は、ある単元が苦手でも、次の単元の学習に取り組んでみれば、意外と問題が解けるようになったりするものです。苦手分野の克服は非常に重要な事ではありますが、社会科の学習においては、まずは得意な分野、関心のある分野から知識を固め、得意を伸ばしていくことを優先にするという考えも重要だといえます。社会は、まず得意なことを暗記して自分の勉強に自信を持ち、自信を持った勢いで苦手な単元に挑戦するということが十分に可能な教科なのです。(瀬野)

「ふんごやふー」

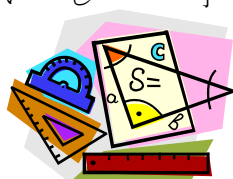
私の娘は、大震災の混乱の残る2011年4月に福島で生まれ(里帰り出産でした)、先月無事2歳になりました。ちょうど今は、大人のやることや話す言葉をすぐ覚えてすぐ実践する時

期です。先日私がペンを持って勉強していたときに、横にちよこんと座って何かを書き始めたのですが、ペンを持っている手を見てみると、教えてもないのに完璧な持ち方で書いていました(書いている内容は訳が分からないものでしたが)。見ているだけでそんなに器用にマネできるのはすごいなあ、と。そんな再生能力を見ていると、「わが子は天才か?」と思ってしまいます(親バカです…)。

先日、そんな可愛い娘がある出来事で叱りました。妻が娘に何かを話しかけたときです。娘も集中して何かをしていたのですが、母親に向かって「うるしゃい!」と言ったのです。そんなに悪いことではないのかもしれませんが、外で他の子や大人に使ってほしくないと思い、強く叱りました。「そんな言葉を使うな!」と。言葉は分からないかもしれませんが、怒っているのは分かったようで、「ごめんしゃい」とその場では謝るのですが、その後も娘は頻繁に「うるしゃい!」を使い続けました。全く改善される気配がないので、妻と緊急ミーティングを開きました。最初の議題は、なぜこの言葉を使うようになったのか?です。結果はすぐに出来ました。娘が部屋で大騒ぎをしているときに、私が何度も連呼していたのです。それをマネしているだけでした。親が使っている言葉をマネしただけで、叱られる娘はたまったものではありません。

せん。まず私が使うのを止めよう、と決心しました。次に、改善方法です。「言うな!」だけだと、娘の意思を伝える方法がままになってしまいうので、代わりに言葉を覚えさせよう、と。大した違いはないかもしれませんが、代替案は「(人差し指を口にあてて)しー!」です。これを一週間やり続けた結果、今ではあまり言わなくなりました。

実は、普段の授業の際も生徒に言ってしまう言葉があります。それは「面倒くさいなあ」です。数学の問題に取り組み際に生徒が口走るのを聞くと、とても悲しくなる言葉です。確かにそういう気持ちになることもあるかもしれませんが、口から発することで、自らに暗示をかけてしまうからです。娘のこの後だったので、なぜ生徒がそういう言葉を使ってしまうのか?を考えました。またも結論はすぐ出ました。私が使っていたのです。ときには連呼していました。計算方法の授業で、工夫することで、より効率よく解くことができる新しい手法を説明するとき、「このやり方だと面倒くさいので、このようない新しいやり方!」と言っていたのです。またまた反省です。まず私が意識して言わないようにしなければと思いました。



人は、周りの人が使っている言葉を自然に使いまわってしまう癖があります。今まで以上に、家庭や創学舎で多くの人が私の言葉使いに影響される、という意識を強く持つて、言葉を発ししていきます。(長坂)

親が口づけるさい理由①

●家庭によって教育方針は様々である。授業中に、各家庭の様子が生徒の口から話題に出たりするが、受験生と親の関係としては、概ね良好であると思う。「ウチの親はうるさいですよ。」という声もあるが、話を聞く限りはそれでも恵まれていると思う。今日は、何故うるさく言うのかを含めて、親の気持ちを紹介したい。そして、受験生は何故悩むのか、どうしたらいいのかも伝えたいと思う。

●まずは、過去の極端な例から。①生徒の勉強部屋にビデオカメラが設置してある。少し気を抜いていると、親がすつとんでき「何やってんだ。」とどなる。②勉強する間じゅう、父親が無言でそばにいてずつと見張っている。



③勉強部屋の隣が和室になっていて、そこに父親がいて、ふすまの間からずつとのぞいている。④定期的に、両親の前に座らされ、「もっとやれ。」「お前はやれるはずだ。」「ウチの家系はみ

んな優秀だ。」と長時間説教される。これまで見聞きしたケースの中で、目立つものをあげてみると、きみ達はこんな環境にはないはずだ。とすれば、幸せだ。運が良いと思わなければ、因みに、前記の4例の結末は各自で想像してもらいたい。

●さて、親は何故、勉強のことをうるさくいうのだろう。答えは簡単。きみのことを大事に思っているからだ。でも、うるさくない親もいる。とすれば、その親はきみのことを大事に思っていないのか? いやちがう。やはり大事に思っているのだ。では、うるさい親とうるさくない親は、どこが違うのか? それは、親の気質と育った環境と価値観と経験の違いなのだ。4つもの要素の組み合わせの結果として、様々なパターンが生まれるのだ。

●同じ親でもこんなこともある。上の子の受験のときは、その子が良い成績をとっているので安心している。子供が勉強しない悩みを知り合いの母親から相談されると、「うるさく言いすぎるんじゃない?」「もう少しのびのびさせた方がうまくいくわよ。」とアドバイス。数年後に下の子が受験。全く勉強をしない。あの穏やかな母親が鬼ババアに変身。「そんなことでどうするの?」「お兄ちゃんももっとやってたわよ。」「やればできるんだから。」「〇〇高校以上じゃないと受験させないからね。」

●これと同じパターンで、下の子が成績不振でも、「この子にはこの子の良い所がありますから。」とニコニコしている親もいる。本当に、教育方針も、対応の仕方も様々。保護者面談をしても、お伺いする話の一つ一つは、それ自体はほとんど筋が通っている。いやいや子育ては、子供が親とつきあっていくことは、なかなか難しい。

●さて、親は、「勉強しろ。」と何故うるさく言うのだろう。子供が「高校なんか行かない。」「受かるんだったらどこでもいい。」「大学は受けない。」「と言ったら、親は動揺するが、それは何故だろう。子供の側からは、きっと分からないと思うが、親の側には、はっきりとした理由がある。きみに、一人で生きていく力をつけてほしいからだ。勉強や進学は、一番目ではないが、一人で生きる力をつけるための手段の大きな一つだからだ。これは、大人はほぼ全員了解していることだと思う。

●親はみんな、子供の成長を願って、充実して安定した人生を送って、くれることを願う。具体的には、



まず健康。そして、良好な人間関係を多くの人と築いていけること。世の中で一人の人間として生活の糧を得る(金銭を得る)力をつけることなど。こうしたことの次に、自分の好きなことを見つけてほしい、豊かな趣味をもってほし

い、親の仕事をついでほしい、親の老後を見てほしい、独創的な仕事をしてほしいなど、ある意味勝手な願いがどんどんくっついてくる。

●では、親は子供が成長するためにどんなことをしてきたのか? 食事など毎日の世話は勿論、様々な習慣(能力)を身につけさせるために努力してきた。歯を磨きなさい、片付けをしなさい、きちんとたたみなさい、靴をそろえなさい……。

子供には意味など分かるはずもないが、多くは命令口調で、こうした習慣を身につけさせようとしてきた。早く起きなさい、忘れ物をなくしなさい、ハンカチを忘れないで、お風呂に入ったらちゃんと洗うのよ、宿題はちゃんとやるのよ……。学校に通うようになっても続く。ちゃんとあいさつしなさい、お世話になったらお礼を言いなさい、悪いことをしたらちゃんと謝りなさい、人に迷惑をかけないように……。指示はその能力が身につくまで止むことはない。親によって、どこに重点を置き、どういう方法でその習慣を身につけさせる

かは違うが、大半は共通している項目である。そして、その指示命令は、子供が年齢を重ねるにつれて変わっていく。(以下、次号に続く)

(小林(健))

▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料で送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。